

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月1日実施)	総合評価（3月16日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	世界市民として自立し、探究心、知識、思いやりに富み、豊かな世界観を身に付けたグローバルリーダーの育成に向けて、質の高い英語教育、多様な言語や文化の学び、及び探究的な学びを重視した国際教育の取組を推進する。	- 国際科及び国際科国際バカロレアコースの特色ある教育課程を生かし、探究活動を柱とした教科横断的なカリキュラム・マネジメントを推進する。 - 自らの興味・関心に基づいた問を設定し、研究を深める探究学習を推進する。	2つの教育課程に共通した校内授業研究テーマを設定し、それに基づき各教科で授業研究を進め、その取組の成果を公開研究授業で検証する。 - 探究活動を深めるための授業研究をより一層推進し、校内外において探究の成果発表の機会の充実を図る。	- 探究活動を核とした校内授業研究テーマを設定し、それに基づく授業研究を進めて、公開研究授業を実施できたか。 - 総合的な探究の時間において、学習目標の達成に向けた取組が実施できたか。	- 年間を通して情報の整理・分析に焦点を当てた授業改善を行い、公開研究授業において県内外27名の参観者と共に研究協議を行った。 - 探究発表大会の告知を行い機会の拡充を図った。隔週で担当者会議を設け、個人の問いから学問領域と結び付く問いの設定に向けた指導の共有を行った。	- 探究活動を核としつつ、各教科の見方や考え方から物事の本質や仕組みを多面的に捉えられるよう概念学習を推進する。 - 引き続き学問領域および社会課題に結び付く問いの設定を推進し、当事者意識をもって能動的に探究を行う姿勢を育成する。	- 本校の特色である国際性を活かした探究学習を発展させている点が特徴的であり、評価できる。生徒たちの今後の進路等に発展させるために、幅広いテーマを取り上げることで、より発展性がでてくのではないかと。 - 現行の学習指導要領では、「探究的な学び」が重視されており、そのことが4年間や1年間のそれぞれの目標に十分反映されている。	- 探究をベースとしたカリキュラム・マネジメントをすべての教科の教員が意識して、国際科とIBの2つのコースが相互に連携し、より質の高い教育活動を継続する必要がある。 - 令和7年度生徒による授業評価アンケート結果:項目3の回答4（令和6年度）前期52%、(48%)後期48%、(46%)	- 次期学習指導要領の方向性を取り入れながら、概念的な理解を深めていく。探究の時間をはじめとして、国際科とIBが共同で実施できる教育活動を検討する。 - 各教科において單元ごとの目標をより意識した授業改善に取り組む。
2	生徒指導・支援	多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制を推進し、規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導・支援を行う。	- 学校外の実教力も活用し、生徒の状況を把握するとともに、職員間の情報共有を図り、適切な指導・支援につなげる。 - 学校生活を通じて生徒に自主自立の力が身に付くように指導する。	- SCやSSW等との連携、ケース会議の開催等をととして職員の情報共有を図り、生徒が抱える課題の把握及び適切な指導・支援を行う。 - 生徒の自主的な活動や行事等をととして自主自立の力を身に付けさせる。	- かながわサポートドックの効果的な活用を含め、生徒の課題の把握及び適切な指導・支援が実施できたか。 - 学校行事や部活動等、生徒の主体的な活動を支援できたか。	- SCやSSWと週1回ペースで会議を開催することができた。 - サポートドックの結果について年間2回全職員で共有することができた。 - 生徒会本部や各種委員会において昨年度より生徒が自主的に取り組むことができた。	- 今年度、SCとSSW両者揃っての会議を1回しか開催できなかったのて来年度は少なくとも年2回開催したい。 - 今年度の生徒の活動をベースに来年度はさらに生徒が企画・立案・実行できるようサポートする。	- SCとSSWと連携して教職員が情報共有しつつ、生徒の支援を行っている点の評価できる。 - 不登校や心理的に不安定な生徒の対応は喫緊の課題で、SCとSSW合同の会議の開催等、積極的な取組は高く評価できる。	SCとSSWとの連携及び情報共有により迅速に対応できたケースが増えた。一方で年次内での共有に留まり教育相談コーディネーターまで伝わっていなかったことがあった。	- 年度当初に教育相談体制について全職員に周知をするとともに情報をデータ化し誰もが情報を常に共有できるシステムを構築する。 - 生徒会執行部を中心に各種委員会委員長との合同会議を行う。
3	進路指導・支援	- 海外を視野に入れた生徒の進路希望の実現に向け、学習意欲を高め、幅広い学力の習得と定着を図り、組織的・計画的な進路指導を行う。 - 生きる力の育成を目指し、自主的に将来の進路や職業について深く学び、人生設計ができる資質・能力を育む。	- 日々の授業に積極的に取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、みずからの学力を的確に把握し、幅広い視野で将来の目標設定ができる力を育成する。 - 生徒個々の進路希望の状況を踏まえ、総合型選抜から一般選抜まで、多様な入試に対応できる進路指導体制の構築を図る。	- 国内及び海外への進学に向けて3年間を見通した系統的な計画に基づき教科と連携した指導を実施する。 - 海外進学支援担当がカレッジカウンセラーと連携しながら、進路実現につながる情報収集を進め、進路説明会や面談等を実施する。	- ガイダンスルームの整備と充実、チューター制の活用推進、模試の効果的な振り返り等によって、3年間を見通した計画的な進路指導を実践できたか。 - 学校外の実教力も活用しながら、生徒及び保護者に情報提供を行って、進路実現につなげることができたか。	- 国内及び海外への進学に向けて、ガイダンスルームの整備、資料の充実を図り、カレッジカウンセラーと連携して海外進学ガイダンス、外部講師による生徒・保護者向け説明会や研修会を行った。 - チューターや模擬面接指導を通して生徒の進路実現に向けて職員一丸となって指導に当たった。また、夏休み等を活用し大学等が開催する高校生向け授業等に生徒を参加させることができた。	- 今後海外への進学希望者数の増加が予想されるので、海外大学の指定校推薦拡大も視野に入れた支援体制を整える。 - チューター、模擬面接の担当者の円滑な割り振りを図るべく、業務を見直してよりスムーズに生徒の進路指導を実現できる組織的な体制を作る。また模試振り返り講演会を設定する。	- 国内だけではなく海外も視野にいれた進路指導を行っている点、カレッジカウンセラーと連携して海外進学ガイダンスや外部講師による説明会等を実施して進路指導に取り組んでいる点の評価できる。 - 生徒の大学選びが国外にも及んでいることは、横浜国際高校の大きな特色の一つとして外部に示すことができる。	- 国内及び海外への進学に向けて、担任、教科担当、チューター、模擬面接指導担当、外部講師、保護者等と連携を図り、進路指導を実践できた。 3年間の体系的な進路指導をより充実させると共に、生徒の希望に合わせたきめ細かな指導が実践できる体制をより強化する。	1、2年次で模試の振り返り講座を実施する。その他進路説明会の内容の充実を図る。 18期生の進路結果をもとに、指定校推薦を含む海外進学及び国公立、私立難関大受験に向け、総合型選抜及び一般選抜への指導をより充実させる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月1日実施)	総合評価（3月16日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	・環境問題や社会奉仕について取り組み、生徒が主体的に関わりながら、地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域社会や国際社会に貢献できるようにする。	・広報活動の推進、学校運営協議会の活用及び地域の町内会や小・中・特別支援学校等との連携を通して、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。 ・高大連携協定を結んでいる大学をはじめ、大学や研究機関などの教育力を活用し、国際社会に貢献する意識を高める機会を増やす。	・学校説明会、学校ホームページや SNS を活用して、本校の魅力や IB コース、第二外国語についての広報を積極的に発信する。また様々な行事、イベントを通じて地域と連携した取組を推進する。 ・高大連携協定を結ぶ東京外国語大学や清泉女子大学との連携を充実させるとともに、各種機関と連携・協働を推進していく。	・本校を志望する中学生やその保護者、及び一般県民をはじめとした外部に本校の魅力が伝わる学校説明会ができたか。また、学校ホームページや SNS を通じて魅力を発信できたか。 ・大学や研究機関との連携等を通じて、国際社会に貢献する意識の醸成ができたか。	・ホームページのリンク切れや、情報が古い箇所を削除、整理した。アラビア語体験講座を実施した。また IB 体験授業については参加定員を昨年より倍増し、多くの小中学生やその保護者にIB教育について知っていただく機会を設けた。 ・東京外国語大学への大学訪問に多くの生徒が参加し、清泉女子大学で行われるスペイン語講座にも参加し、交流・連携を深めている。	・さらに見やすいホームページにするために情報の内容を定期的にチェックし、更新作業を行う体制をつくる。IB 体験授業については、内容を精査し、担当者と情報共有を密にして計画をしていく。 ・大学、研究機関との連携をさらに深め、生徒の進路意識につなげていきたい。また地域との連携も引き続き行い、協働を深めていく。	・高大連携協定を結ぶ大学と連携し、国際社会に貢献する意識を高める活動を実施している点が評価できる。 ・ホームページの随所に生徒自身の声が紹介されていることは、学校の特色を伝えるうえで大きな効果があると考ええる。 ・地域のコミュニティバスの運転開始に際して、車体のラッピングデザインを生徒が担当して、素晴らしい作品をつくってくれた。	・ホームページの情報の更新はある程度改善はできているものの、更新が必要なものが残っている。常に最新の情報を閲覧できるようにする必要がある。 ・今年度も生徒主体の学校説明会では、訪れた中学生、保護者から好評であった。 ・例年行われる地域の防災訓練に多くの生徒が参加したことに加え、今年度はコミュニティバスのラッピングデザインについても貢献することができた。	・ホームページで最新の情報を発信できるように、一人の担当を決めずに各ページ、項目を他グループに割り振り、業務量を分散させていく。 ・今後も地域との連携を大切にし、防災訓練やお祭りについて校内生徒に周知して参加者を増やしていく。 ・生徒主体の学校説明会の形態は変えずに、中学生や保護者のニーズを意識し、発信する内容の精査をし、企画する。
5	学校管理 学校運営	・ワーク・ライフ・バランスに配慮した教員の働き方改革を推進する。 ・生徒の安心・安全のために教育環境を整備し、併せてコンプライアンスの徹底、事故・不祥事防止に努める。	・ICTの利活用等によってペーパーレス化に向けた取組を進め、会議時間等の短縮を図る。 ・施設設備の点検と確認を進めるとともに、避難訓練の充実を図る。また、定期的な清掃と点検を行い、学校環境の改善に継続的に取り組む。	・ICT環境のさらなる整備を進めると同時に、その活用を図る取組を推進する。 ・危険につながる箇所の点検や確認を進めるとともに、実際の場面を想定した効果的な避難訓練を実施する。また、環境委員会を主体として、環境美化活動を通じて生徒・職員の環境意識の向上を図る。	・会議のペーパーレス化を進めることができたか。また、働き方改革に向けた取組を推進することができたか。 ・定期的に施設設備の点検を行うとともに、工夫ある避難訓練が実施できたか。また、学校環境の改善に取り組むことができたか。	・Teams や Classroom の活用により、各会議での情報共有がより円滑に行われている。結果として、会議の削減や時間短縮につながっている。 ・令和6年度同様、LHR内ではなく授業時間における避難訓練を実施し、昨年度よりも円滑な避難訓練を行うことができた。また、環境の美化については、生徒が主体的に環境整備を呼びかけた。	・電子黒板の導入等により、ICT 環境が整った一方で、新たに機器の故障や破損などに対応する場面が増えた。不測の事態に対応できるように努める。 ・避難訓練が「訓練のための訓練」にならないよう、より実践的な内容に改善していく。また、校内美化については、生徒主体の呼びかけや活動を継続して行う。	・ICT の活用を進め、会議のペーパーレス化や Teams、Classroom を用いた情報共有を進めている点は評価できる。オンライン化に伴い、情報セキュリティの面も強化し、生徒・教員への研修等も実施していく必要があるのではないか。 ・普通科進学校とは異なる「国際高校」としての理念を教職員がしっかりと共有していると感じる。これまでの管理職や教職員の皆様の努力に敬意を表したい。	・ICTの利活用によりオンラインでの情報共有を行う機会が増えた。結果、会議時間の短縮や実施回数を削減につながった。 ・避難訓練の実施については、昨年度よりも円滑な実施ができた。今年度出てきた課題を解決できるよう、次年度につなげていきたい。校内環境整備については、教員主導から生徒主体の啓蒙活動を行い、継続して指導をしていく。	・働き方改革の観点から、土曜日に予定される業務の削減を目指す。 ・生徒の個人情報に係る電子データは暗号化サーバを使用するなど、情報セキュリティに関する職員研修や注意喚起を引き続き行っていく。 ・環境意識や防災意識の向上のため、環境委員会を充実させるなど、より生徒主体の活動へとつなげていく。